

2026（令和8）年度入学試験問題

国 語

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は60分です。
3. この問題の本文は全部で17ページ（問題一・二）です。
 ネットワーク情報学部では、問題一のみを採点の対象とします。
 問題二は、ネットワーク情報学部のみを受験する方は解答しなくても結構です。
 同一日に他の学部を受験する方はすべてを解答してください。
4. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 解答は、設問に従って、該当する解答欄にマークしてください。なお、すべてマーク解答問題です。解答にあたっては、必ず黒の鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
6. 解答用紙に記入するときには、下記の点に注意してください。
 - (1) 氏名・受験番号を所定欄に記入し、該当するマーク欄を正確にマークすること。
 （機械処理上、非常に重要なので誤記のないよう注意してください。）
 - (2) 訂正する場合は、プラスチック消しゴムで完全に消してから改めて書き直すこと。
 - (3) 指定した解答欄以外および枠外の空白部分には何も書かないこと。
 - (4) 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないこと。
 - (5) 解答用紙の解答欄をマークするときは、次の（例）のようにマーク解答欄の番号をぬりつぶすこと。

（例） ③と解答する場合

マ ー ク 解 答 欄									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

7. 問題冊子の余白等は適宜利用してかまいません。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問題一（現代文）

全員が解答してください。

問題一 次の文章は、渡邊雅子『論理的思考とは何か』序章の一部である。これを読み、後の設問に答えなさい。

哲学の目的は物事の本質を捉えることである。具体的には「……とは何か」という問いに「……は……である」と答えようとする。定義することと言い換えることもできる。しかしその答えは「絶対の真理」ではない。本質についての多様な答えを提示して、さらなる議論を積み重ね、できるかぎり共通の了解にたどり着き、それを土台に議論して対立を解消したり、問題解決したりすることが哲学の意義である。

では「ものごとの本質」とは何だろうか。たとえば「美とは何か」と問われた時、「サラブレッド（美しい馬／生き物）」とか「楽茶碗（美術品）」という答えは哲学的に正しい答えとはいえない。「本質」とは、美の属性を表すあれやこれやの具体物ではなく、それらが「美しい」といわれるのは何に基づいているのか、「美についての考え」である。美という抽象的な概念について定義すること、なんらかの答えを出そうとするものである。

そうであるので、哲学的に意味のある問いとそうでない問いがあるのが分かる。たとえば「GDP（国内総生産）とは何か」とか「GDPを増やす施策とは何か」という問いは、前者については決定^Wの定義がすでに存在し、後者については現状の分析から具体的な施策が導き出されるため、哲学的な問いにはならない。

哲学的な問いとは、「幸福とは何か」、「正義とは何か」、権力とは、法とは、自由とは、時間とは、魂とはなど人間の生き方に関わることの「意味を問うこと」である。したがって立場によって違う答えしか得られないような問いである場合が多い。逆に知識が確定的になると、その主題は哲学から切り離されて別の学問領域になる。論理学や心理学、自然科学一般、法学、政治学はそうした歴史的経緯をたどった。

では各専門分野と哲学の考える概念はどこが違うのかといえば、たとえば政治学は権力をいかに少数の者に集中させないかについて考え具体的な施策を提案するのに対して、哲学は「権力とは何か」と問うて、権力についての「考え」を深めようとする。哲学が扱うのは「考え」という分野であり、「……についての考え」という言葉にあてはめると哲学者がそれぞれの専門分野でどの

ような立場を取るのかが分かりやすい。それぞれの分野は分野独特の目的（視点）と方法と対象を持つのに対して、哲学はあらゆる分野について考えることができ、どの分野でも同じ方法を用いる。あらゆる知識は専門分野という特定の視点の中に収まっているものだが、哲学は知識全体を大局的な観点から眺め、その視点自体を生み出すものといえる。

哲学が特別なのは、考える内容というよりは哲学独特の方法のせいである。「……とは何か」という問いを使って抽象的な概念の正確な意味の定義を行うために、「問答」と「対話」によって互いの共通点や差異を取り出しながら探究を行う方法が古代から用いられた。ソクラテスの産婆法(注)と呼ばれる対話法は、問いを立てて相手に答えさせ、さらなる問いによって相手の答えの矛盾に自ら気づかせ、それまでの考えを捨てさせて探究を進める方法である。

レトリックが常識を議論の前提に据え、類似した事例を根拠に議論するのに対して、哲学においてはむしろ常識を疑い、批判的に見ることによってものごとの本質をつかもうとする。そのためには自然や社会など多様な知識の中に問いを位置づけて俯瞰的に議論することが求められる。個人的な経験からの一般化は哲学においては最も避けなければならないものとされているので、対話や討論を行う時には、主題について蓄積された過去の議論を足がかりにする。先人のたどり着いた答え（定義）を議論の中で対話させることにより、より包括的な、積極的な、または全く新しい視点に立った説明を求めていく。提案↓議論↓再提案を繰り返すし、提案に対する反論からより包括的な提案を導くというように、真理を求めながらも、その答えは常に議論や反論によって更新されていくことを前提としている。

ものごとの本質を捉えることを目指す哲学は、厳密に正しく考えるために細心の注意を払う。人間がものを考える時には、否応なく言葉を使って考えるため、正しく考えるには、正しい言葉の使用が前提となる。この時役立つのが文法と論理学である。

まず文法的に正しい文で考えているかをチェックする。文法的に正しい文で考えるとは、文章を構成する規則に従って意味の通る文になっているということである。次に文を構成する語の意味が適切に使われているかを確かめなければならない。私たちが日常使う言葉の多くは複数の意味を持つ。「……とは何か」を定義する時に、複数の意味に解釈されてしまうような曖昧な言葉の使

い方をしていないか、そして言葉の結びつきが矛盾を含んでいないかどうかを確かめる（たとえば「四角い丸」のような矛盾がないか）。

こうして文の構造と文を構成する語のひとつひとつを注意深くチェックした上で、言葉と考えが筋の通るように組み合わせられているかを、論理学の形式の規則に照らして確かめる。特に接続詞や否定（「ではない」）の適切な使用と「すべて」と「ある」の含まれる関係に矛盾がないかは、錯覚と正しい考えを区別する重要なチェックポイントである。文法と論理学が哲学の基礎として学ばれるのは、哲学の活動は言語と論理への働きかけを通して行われるからであり、その時言葉と文章という思考の道具がどのように働いているのか、その使用にあたって注意すべき落とし穴は何かを知らなければならぬからである。

思考のプロセスを超越した^Xシユン間的なひらめき（靈感・インスピレーション）や直感とは、西洋の哲学においては避けるべき方法とされ、理屈を積み重ねて結論を引き出す「理性」を頼みとする。

定義を行う時には、レトリックのように常識をもとにした推論の型の中から選ぶのではなく、過去の議論をもとに自律的に考えることが哲学では重要になる。哲学の唯一の道具である言葉は共同体の中で流通しているため、知らないうちに共同体の常識に縛られた考え方をしていないかもチェックする。こうした厳密かつ自律的に考えるための基礎固めを行った上で、哲学が提案する思考法として、思考実験と弁証法を挙げる。

思考実験は、「生存権とは何か」、「自由とは何か」といった概念に関わる問いに直接的に答えることが難しい場合、架空のシナリオを描いてその具体的な状況をもとに答えを出す。思考実験における仮想的なシナリオは、事実を反することを思い描いて、そのような条件から、反事実的な条件文を導き、その正当／不当を判断する。たとえば、思うままに透明人間になることができ、罪を犯しても捕まって処罰されないとしたら、人間はどのように振る舞うかは、プラトンが道徳について考える時に行った思考実験である。

哲学の代表的な方法のひとつである弁証法は、対話・弁論の技術を指し、ソクラテスやプラトンにおいては対話を通してものご

との本質を概念的に捉える方法とされた。ソクラテスの対話法は別名「産婆法」とも呼ばれ、問答を通して相手の知識の矛盾や曖昧さを指摘し、無知の自覚を持たせることで知恵を吟味し正しい認識へと導く過程を産婆の役割になぞらえたものである。

他方アリストテレスによる弁証的推論は、大衆に受け入れられている意見を前提とするレトリックの蓋然的推論を指し、常識を疑う哲学の方法としてはむしろ避けるべきものとされた。

ドイツの哲学者ヘーゲルの弁証法は、ある見方、それに反する見方、それらを総合する見方という〈正↓反↓合〉の段階を経ることによって、概念が自己内の矛盾を解決して高次の段階へ至る論理構造を提示した。

このように、弁証法は時代や哲学者によって異なる意味を持つが、現代で弁証法といえば、ヘーゲルの弁証法を思い浮かべる人が多い。本書の第二章で説明するように、現代のフランスの高校生たちはこのヘーゲル流の弁証法を使って哲学の問いに答えることを求められている。

真理を求めて探究を行う一方で「絶対的な真理」を想定しない哲学においては、すべての問いにはひとつの答えが用意されているとの思い込みから私たちを解放する。一方ですでに存在している考えを批判的に見ることを奨励するが、他方で古代から蓄積された哲学者たちの考えを捨ててしまうのではなく、それらを対話させ、過去の考えの間の矛盾を弁証法を使って解決し、より積極的に広い視野を持った考えへと昇華させることを目指す。自らの考えも外から眺めるように俯瞰して観察すること、その時に自らの考えを文法と論理学を使って文と語のレベルでチェックし、言葉のチェックを論理のチェックと捉えて厳密に行うこと、そして正答のない問題について積極的に考えてみることを哲学は推奨する。

「……とは何か」という問いの立て方と、「……は……である」という主語と述語の関係によって問いに答える方法は、古代ギリシアの哲学者たちが作り出した哲学独自の考え方のルールである。このルールに従って自然と社会に関する多くの思想と知見が生まれた。論理学は「正しい前提」から出発して正しい結論を導くが、哲学は私たちが正しいと考えている「前提」とはどのようなものかを問う。そしてその前提そのものを吟味にかける。私たちがどのような前提で世界を見ているのかを問い、そうした前提

に間違いがあったり、疑問視されたりする場合は、より積極的な見方を提示する。そのような探究の継続を通して、よりよく生きる方法やよりよく考える方法を哲学は提供する。

(設問の都合上、一部を改変した)

(注) 産婆……出産を助け、妊産婦や新生児の世話を仕事とする女性

問一 傍線部W「ズみ」の「ズ」を漢字で書き表すとき、傍線部がその漢字となるものを次の①～⑥の中から一つ選び、解答

欄 1 にマークしなさい。

- ① 借金をカンサイする
- ② イツセイに手をあげる
- ③ 薬局でチョウザイする
- ④ 祖母はソクサイに過ごしている
- ⑤ 傾いた会社のサイコウをはかる
- ⑥ スイスはエイセイ中立国だ

問二 傍線部X「シユン間的」の「シユン」を漢字で書き表すとき、その訓読みとして正しいものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 2 にマークしなさい。

- ① きらめく
- ② つみやく
- ③ ささやく
- ④ またたく
- ⑤ つぶる

問三 傍線部Y「シナリオ」とあるが、劇作で知られる次の作家を没年の早い順に並べたものとして正しいものを次の①～⑥の中から一つ選び、**解答欄 3** にマークしなさい。

- ① つかこうへい | 三島由紀夫 | 寺山修司
- ② 三島由紀夫 | つかこうへい | 寺山修司
- ③ 寺山修司 | つかこうへい | 三島由紀夫
- ④ つかこうへい | 寺山修司 | 三島由紀夫
- ⑤ 三島由紀夫 | 寺山修司 | つかこうへい
- ⑥ 寺山修司 | 三島由紀夫 | つかこうへい

問四 傍線部Z「蓋然」の対義語としてもっとも適当なものを次の①～⑥の中から一つ選び、**解答欄 4** にマークしなさい。

- ① 漠然 ② 必然 ③ 未然 ④ 偶然 ⑤ 決然 ⑥ 自然

問五 傍線部A「そうでない問い」とあるが、その説明としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄 5** にマークしなさい。

- ① 抽象的な概念を定義することやなんらかの答えを求める問い
- ② 「……についての考え」という言葉にあてはまらない問い
- ③ 知識全体を大局的な観点から眺めなくても考えられる問い
- ④ 探究する者の立場が異なると正しい答えが変わってしまう問い
- ⑤ 着眼すべき対象や答えを導く方法を見つけないことのできない問い

問六 傍線部B「知識が確定的になる」とあるが、その説明としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答

欄 **6** にマークしなさい。

- ① 各専門分野の中で共通の理解にたどり着く
- ② 抽象的な概念を定義するために探究を継続する
- ③ 哲学が分野独特の目的、方法、対象を持つ
- ④ 哲学の生み出した特定の視点の中に知識が収まる
- ⑤ どの分野についても同じ方法で考えることができる

問七 傍線部C「多様な知識の中に問いを位置づけて俯瞰的に議論する」とあるが、その説明としてもっとも適当なものを次の①

～⑥の中から一つ選び、解答欄 **7** にマークしなさい。

- ① その分野独特の目的と方法で探究を継続し、よりよく生きる方法を提供する
- ② 蓄積された議論を足がかりとして、より広い視野を持った考えを求めていく
- ③ 探究を進めるために「問答」と「対話」によって過去の議論を整理する
- ④ 類似した事例を根拠に常識を疑い、批判的に見ることで本質をつかもうとする
- ⑤ 先人がたどり着いた定義に拘泥せず、より包括的で積極的な説明を目指す
- ⑥ 反論から導かれた包括的な提案にさらに反論を加えることで真理に到達する

問八 傍線部D「厳密に正しく考えるために細心の注意を払う」とあるが、その説明としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄 8** にマークしなさい。

- ① 文章を構成する文が意味の通るものになっていることを確かめた後に、文を構成する語の意味が適切に使われているかを確かめること
- ② 複数の意味に解釈されてしまうような曖昧な言葉の使い方をしていないか、言葉の結びつきが矛盾を含んでいないかを確かめること
- ③ 文の構造と文を構成する語のひとつひとつを注意深くチェックした上で、筋が通るように言葉と考えが組み合わせられているかを確かめること
- ④ 言葉と文章という思考の道具がどのように働いているか、その使用にあたって注意すべき落とし穴は何かを知らなければならぬこと
- ⑤ 共同体の常識に縛られた考え方をしていないかをチェックして、厳密かつ自律的に考えるための基礎固めができていないかを確かめること

問九 傍線部E「このルールに従って自然と社会に関する多くの思想と知見が生まれた」とあるが、その説明としてもっとも適当

なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **9** にマークしなさい。

- ① 哲学独自の考え方のルールに従って過去に蓄積された考えを放棄して、より広い視野を持った考えへと昇華させることを目指して探究を継続した
- ② 哲学独自の考え方のルールに従って知識全体を大局的な観点から眺め、俯瞰的に議論することで、よりよく生きる方法やよりよく考える方法を見つけた
- ③ 哲学独自の考え方のルールに従って言葉のチェックを論理のチェックと捉えることで、正答のない問題を厳密かつ自律的に考えるための基礎を固めていった
- ④ 「……とは何か」という問いの立て方は、「正しい前提」がどのようなかを問うたり常識を批判的に見たりする新たな探究の方法を私たちに気づかせた
- ⑤ 「……とは何か」という問いの立て方は、真理を求める一方ですべての問いにはひとつの答えが用意されているという思い込みから私たちを解放した

問一〇 本文の内容と合致するものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄** **10** にマークしなさい。

① 問いの立て方や問いに答える方法が独特である哲学は、常識を前提に議論することで多くの思想や知見を生み出すことができる

② ものごとの本質を捉えることを目的とする哲学は、厳密に正しく考えることが不可欠なので言葉ではなく論理の正しさを重視する

③ 哲学は古代から蓄積された哲学者たちの考えを更新し続けるので、厳密かつ自律的に考えることが独自のルールとなっている

④ 哲学は「絶対的な真理」を想定して探究を行うため、すべての問いに答えが用意されているという思い込みから私たちを解放する

⑤ 哲学は既に存在している考えを批判的に見て、正しいとされている前提の吟味を繰り返すことでもものごとの本質を捉えようとする

問題二（古文）

ネットワーク情報学部では採点の対象となりません。

ネットワーク情報学部のみを受験する方は解答しなくても結構です。

ネットワーク情報学部以外の学部を受験する方、およびネットワーク情報学部と他学部を併願している方は解答してください。

問題二 次の文章を読み、後の設問に答えなさい。

近き世に、下野国利根川のほとりに、いづくの者とも知らず、かたのごとくの庵結びて、明かし暮らせる僧一人侍り。よろづ無相にて、つゆばかりもけがる心なく、行く末なく心ざま柔和にて、腹を立つるわざ、いまだ見えざれば、里の人もあはれみ尊がりて、人は無相房とぞ名につけて呼びあひける。

かくて二年ばかり経て、五月のころ、利根川おびたしく出でて、思ひもかけぬ家の具足(注3)も多く流れうせ、命を失ふ輩(注4)、数へつくすべくもなし。この里の人々、「さてもこの無相房は、一定流れうせぬらん。あはれ、ゆゆしかりし道心者にてありし人を」など、おのおのしのびあひたれども、その甲斐侍るまじきことなれば、誰々も音のみ泣きてありけるに、年ごろことに檀那(注4)と頼みたりし男、あたりの有り様のおぼつかなさ(注5)に、跡をなりとも見んとて、人々三人とりくみて、泳ぎわたりて見れば、庵はみな流れて、この僧、水の上に座して、目をひさぎてゐたり。不思議と言ふもおろかに侍り。急ぎ泳ぎ寄りて、「いざさせ給へ」と言ひければ、はるかにものたまはず。やや待たせて、「今しばらくありて、手づから参らん。おのおの過ちもぞし給ふ。急ぎ帰り給ひね」とておはするを、なほあるまじく、袖を引きて行かんとすれども、つゆはたらき給はず。水の上(a)にゐ給ひたれども、着給へるものいささかも濡れざりけり。とかく言へども聞き入れ給はねば、この男三人は、くたびれもぞするとて、つひにむなしく帰りにけり。その後、はるかに日たけて後ぞつき給へりける。

人々、「かかる仏にておはしけるものを」とて拝みければ、「なじかは」とのたまひてけれども、人々聞き伝へて、走り集まりて拝みければ、ある夜の夜半ばかりにうせ給ひにけりとなん。里の者、嘆き悲しみて、尋ね求むれども、さらに見え給はずとぞ。あたりに恋慕して、年ごろ見なれ奉る仏師を呼びて、その姿を作りて、かの庵の跡に、もとの様なる庵を立て、うせ給ひし日なればとて、十八日ごとに、ひと里の人々寄り集まりて、「南無、無相房、南無、無相房」といふ御名を唱へて、縁を結びけるとぞ。

(「撰集抄」による)

- (注1) 無相……一切の執着を離れた境地
 (注2) おびたたく出でて……氾濫して
 (注3) 具足……家具、道具の類
 (注4) 檀那……財物を僧に施す信者
 (注5) 目をひさぎて……目を閉じて

問一 傍線部A「侍り」と敬意の対象が同じ敬語は波線部ア～エのうちのどれか。もっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄 11** にマークしなさい。

- ① ア 侍る ② イ のたまは ③ ウ 参ら ④ エ 給ひ

問二 傍線部B「不思議と言ふもおろかに侍り」の解釈としてもっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄 12** にマークしなさい。

- ① 不思議というよりもむしろ滑稽なありさまでございます
 ② 不思議だと感じてしまうほど馬鹿げた行為でございます
 ③ 不思議などという言葉では言い表せない様子でございます
 ④ 不思議だという思いを抱くのも当然の姿でございます

問三 傍線部C「いざさせ給へ」の意味としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **13** にマークしなさい。

- ① 私にもやらせてください
- ② さあおいでください
- ③ どうぞお教えください
- ④ さあ私にはわかりません
- ⑤ どうか助けてください

問四 傍線部D「おのおの過ちもぞし給ふ」の解釈としてもっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **14** にマークしなさい。

- ① 各人が失敗かどうかを判断してください
- ② 皆さんが怪我などなさってはいけない
- ③ 一人一人が異なる考えを持っています
- ④ 私に何か間違いがあったら困ります

問五 二重傍線部(a)と(d)の助動詞についての説明として適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **15** にマークしなさい。

- ① (a)と(d)の中に、完了の助動詞は一つしかない
- ② (a)と(d)の中に、打消の助動詞が二つある
- ③ (a)と(d)の中に、断定の助動詞は一つもない
- ④ (c)と(d)の活用形は同じである
- ⑤ (a)は命令形で、(b)は未然形である

問六 傍線部E「なじかは」の解釈としてもっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **16** にマークしなさい。

- ① なぜ私のことを心配するのでしょうか
- ② そのように賞賛してくださって感謝します
- ③ 皆さんの言うとおり私は仏の化身です
- ④ 私はそのような尊い者ではありません

問七 傍線部F「年ごろ見なれ奉る仏師」の解釈としてもっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄** **17** にマークしなさい。

- ① 長い間、無相房を親しく見知っている仏師
- ② 無相房と年齢がほぼ同じくらいである仏師
- ③ 数年来、里の者が親しく付き合っている仏師
- ④ ふだんから無相房が親しく見知っている仏師

問八 本文の内容に**合致しないもの**を次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄** **18** にマークしなさい。

- ① 利根川の氾濫は大規模で、多くの家の家財道具が流され、多くの死者が出た
- ② 利根川の氾濫によって無相房はきつと流されたに違いないと里の者は考えた
- ③ 水の上に座っている無相房を里の者が連れて行こうとしてもまったく動かなかった
- ④ 里の者は、日が高く昇った頃に、無相房を助けて里に連れて来ることができた
- ⑤ 水の上に座るといふ奇跡によって、里の者は無相房を立派な僧として**崇めた**

問九 「撰集抄」と同じジャンルの作品としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄** **19** にマークしなさい。

- ① 方丈記
- ② 水鏡
- ③ 伊勢物語
- ④ 沙石集
- ⑤ 去来抄